

パネリスト

ドミニク・チェン 長谷川愛 岡崎乾二郎 木村絵理子 住友文彦

モデレーター

四方幸子

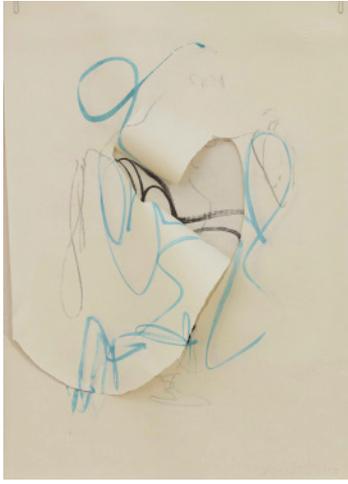
2020年5月16日(土) CROSSING (渋谷“EDGEof”2F)

訪れつつある世界とその後に来る芸術

主催：美術評論家連盟

特別協力  EDGEof

美術評論家連盟 2020年度シンポジウム



上より：岡崎乾二郎
 《Tornado/Tritylodontidae(三つのこぶのある歯をもつ生きもの)》
 《Android/Tritylodontidae(三つのこぶのある歯をもつ生きもの)》
 《Odorant/Tritylodontidae(三つのこぶのある歯をもつ生きもの)》
 《Tonality/Tritylodontidae(三つのこぶのある歯をもつ生きもの)》
 (2018)
 表面：《Tritylodontidae(三つのこぶのある歯をもつ生きもの)》(2018)

現在は、文化の地殻変動の時代にあるのではないのでしょうか。AIや生命科学に代表される最先端技術は、人間／非人間や生命／非生命の境界を私たちに問いかけています。社会では「ダイバーシティ」への移行とともに、ポピュリズムやナショナリズムの反動が顕著です。インターネットは人々の発信を促進する反面、アルゴリズムによる管理が進行しています。国内では、政治、経済そして文化の面でも分断が露呈しています。デジタル化が近代的なシステムを根底から揺るがしているのです。芸術は、社会の危機(Crisis)をいち早く批判的に(Critically)提示する可能性を内包しています。内部でありながら、同時に外のまなざしで社会に関わることができるのです。しかし芸術も、人間とモノや自然との関係がことごとく問い直される「地殻変動」の只中では、自らをより動的に変容させる必要があるでしょう。本シンポジウムは、訪れつつある世界とそのあとにくる芸術の可能性について、ジェンダーや生命科学など領域を超えたパネリストとともにオープンな対話の場を開きます。

美術評論家連盟 2020年度シンポジウム

文化 / 地殻 / 変動

訪れつつある世界とそのあとに来る芸術

2020年5月16日(土) CROSSING (渋谷“EDGEof”2F)

14:00-17:30(開場:13:30)/入場無料(※事前申込み制)/定員120名

お申込み・詳細は→Peatixまたは 検索



ドミニク・チェン Dominique Chen

博士(学際情報学)、早稲田大学准教授。クリエイティブ・commons・ジャパン理事、株式会社ディヴィデュアル共同創業者。IPA未踏IT人材育成プログラム・スーパークリエイター認定。あいちトリエンナーレ2019に2,000人以上からの遺言の執筆プロセスを集めた《Last Words / TypeTrace》を出品。近著に『未来をつくる言葉—わかりあえなさをつなぐために—』(新潮社 2020年)。訳書に『ウェルビーイングの設計論 人がよりよく生きるための情報技術』(BNN新社 2017年、渡邊淳司との共同監訳)等。



長谷川愛 HASEGAWA Ai

アーティスト、デザイナー。生物学的課題や科学技術の進歩をモチーフに現代に潜む諸問題を掘り出す作品を発表。IAMAS卒業後渡英。2012年英国RCAでMA修士、2016年MIT Media LabでMS修士取得。2017年より東京大学で特任研究員。《(不)可能な子供/(im)possible baby》が第19回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞。森美術館、アレスエレクトロニカ等国内外で多数展示。著書『20XX年の革命家になるには——スペキュラティブ・デザインの授業』(BNN新社 2020年)。



岡崎乾二郎 OKAZAKI Kenjiro

造形作家。1955年東京生まれ。主著に『ルネサンス経験の条件』(文春学芸ライブラリー、文芸春秋 2014年)、『抽象の力 近代芸術の解析』(亜紀書房 2018年、第69回芸術選奨文部科学大臣賞受賞)、展覧会企画・監修に「抽象のカー・現実 (concrete) 展開する、抽象芸術の系譜」(豊田市美術館、2017年)、「坂田一男 捲土重来」(東京ステーションギャラリー、岡山県立美術館、2019-20年)、最新の個展として「岡崎乾二郎 視覚のカイソウ」(豊田市美術館、2019-20年)がある。美術評論家連盟会員。



木村絵理子 KIMURA Eriko

横浜美術館主任学芸員、ヨコハマトリエンナーレ2020企画統括。現代美術の展覧会を中心に企画。近年の主な展覧会に、“Hanran: 20th-Century Japanese Photography”(ナショナル・ギャラリー・オブ・カナダ、2019-20年)、「昭和の肖像 写真で辿る『昭和』の人と歴史」(アーツ前橋、2018年)他。横浜美術館の企画に「BODY/PLAY/POLITICS」(2016年)、「奈良美智展」(2012年)、「高嶺格展」(2011年)、「東茅: 断面の世代」(2009-10年)、「金沢平展」(2009年)、「GOTH-ゴス」(2007-08年)など。美術評論家連盟会員。



住友文彦 SUMITOMO Fumihiko

アーツ前橋館長。東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科准教授として、学芸員の育成もおこなう。これまでNTT ICCや東京都現代美術館などに勤務し、それぞれ『Possible Futures: アート&テクノロジーの過去と未来』(2005年)や『川俣正[通路]』(2008年)などを企画。中国を巡回した「美麗新世界」(2007年)、メディアシティソウル2010(ソウル市美術館)、あいちトリエンナーレ2013などの共同キュレーターをつとめる。毎日新聞とArtscapeで連載を持つ。NPO法人AIT創立メンバー。美術評論家連盟会員。



モデレーター 四方幸子 SHIKATA Yukiko

キュレーティング、批評。オープン・ウォーター実行委員会ディレクター、多摩美術大学および東京造形大学客員教授、IAMASおよび武蔵野美術大学非常勤講師。アートと科学を横断する展覧会やプロジェクトを90年代以降キヤノン・アートラヴ、森美術館、NTT ICCキュレーター、またインディペンデントとして国内外で実現。近年の仕事に、札幌国際芸術祭(SIAF) 2014アソシエイト・キュレーター、KENPOKU ART 2016茨城県北芸術祭キュレーター、AMITディレクター(2014-18)など。美術評論家連盟会員。



東京都渋谷区神南1-11-3 渋谷駅ハチ公口から徒歩5分

14:00-15:50	イントロダクション、プレゼンテーション
16:00-17:00	パネルディスカッション
17:00-17:30	オープンディスカッション
18:00-	リンクングパーティ*

*パネリストと美術評論家連盟会員を含む立食形式のリンクングパーティを開催します(会費制)。どなたでも参加可能です。詳細はPeatixまたは <http://www.aicajapan.com> をご覧ください。

2020年度シンポジウム実行委員会
 実行委員長：四方幸子 実行委員：木村絵理子、住友文彦、山本和弘
 主催：美術評論家連盟

特別協力： <https://edgeof.co>

問合せ：aicajpn@gmail.com 美術評論家連盟事務局(山内舞子)
 090-7635-1370(直通) <http://www.aicajapan.com>
 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1 東京国立近代美術館内